



やまゆり

学校だより

令和5年11月16日
60号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標重点 「 確かな学力の育成 」

英語暗唱大会の県大会で「加藤景己」さんが準優勝しました

11月14日(火)に第32回県中学校英語暗唱大会が甲府市南公民館で開催され、南都留支部で優勝し代表として出場した「加藤景己」さんが準優勝しました。県下8支部で優勝した生徒の中でのコンクールで準優勝は快挙です。景己さんの日頃の英語の学習への取り組みと、英語科の千葉教頭・中山先生・メリア先生等の指導もあり、優秀な成績を収めることができました。

審査委員を前に景己さんが発表する様子



受賞後の景己さん



県下8支部で優勝した参加者 2年生・3年生の11名



指導・引率した千葉教頭



学校教育重点目標 「生徒の良さを伸ばし、課題を改善する保護者との連携」

授業参観・学年懇談会・教育講演会へのご参加を御願ひします

11月19日(日)に、授業参観・学年懇談会・教育講演会を開催致します。つきましては、ご参加をよろしくお願ひ致します。

当日の予定 ※ 生徒はスクールバスでの通常登校(7:55発 長又・大渡)

授業参観 1校時 8:50~9:40

1年生 音楽(音楽室) 高村 江里子 教諭

2年生 英語(2年教室) 中山 明憲 教諭

3年生 英語(3年教室) 千葉 玲子 教頭

学年懇談会 9:50~10:40 各学年教室

教育講演会 10:50~12:00 体育館

目的

子どもに寄り添い、子どもたちの心の健康について学び、心身の健やかな成長を育む

講師 北海道大学病院 齊藤 卓弥 先生 ※児童思春期精神医学 特任教授

演題 「子どものメンタルヘルスと学校」

子どものメンタルヘルスと学校

こころの健康について学び、子どもたちに寄り添い、
健やかな成長を手助けし、地域みんなで
子どもたちをサポートしていきましょう。

2023年
11月19日 日
午前10:50-12:00

参加費 無料

申込み 不要

会場：道志小中学校体育館

講師  **齊藤 卓弥** 北海道大学病院
児童思春期精神医学研究部門 特任教授

1987年日本医科大学卒業、その後日本医科大学神経科、コーネル医
科大学精神科(N.Y)、アルバート・アインシュタイン医科大学
(N.Y)を経て、1999年日本医科大学にて医学博士取得。アル
バート・アインシュタイン医科大学精神科助教授、日本医科大学精
神医学教室 准教授を経て、2014年北海道大学大学院医学研究院
児童思春期精神医学分野 特任教授、2019年北海道大学病院 児童
思春期精神医学研究部門 特任教授就任。現在に至る。

精神保健指定医
日本精神神経学会専門医・指導医
専門:児童思春期精神医学

お問い合わせ 道志村教育委員会
Tel.0554-52-1020

学校教育重点目標 「確かな学力の育成」・「豊かな心の育成」

一人一人の心理的安全を担保するための、学級の「安定と活性化」の研究の努力

本校では、3年前から校内研究で学級の「安定と活性化」を両立する学級経営の研究をしてきました。今年度から2年間「令和のやまなし教育活動モデル事業」の協力校で道志小学校と連携して研究を始めました。

研究主題は、「個別最適な学びと協働的な学びで主体的に学習する生徒を育成する」

副題(方法) 「組織でWEBQUを活用し、安定と活性化した学級づくりを通して」

「固定した集団で、安定と主体性の高い学級づくりやその継続は難しい」

いじめや不登校防止、一人一人が主体的に学習できる「安定と活性化」を両立した学級づくりが求められています。しかし、その実現はとても難しいのが教育会の実態です。しかも、単級の小規模校で、「安定と活性化を両立し、それを継続させるのは最難関」と言っても過言ではありません。この問題への対応のために、ほぼ全ての学校で、「1年ごとに学級編制が行われ、メンバーの固定を避ける」ようにしています。それは、固定したメンバーによる集団の階層的序列等の問題や、苦手な生徒との関係における「いじめや不登校の可能性が高まる」からです。

これは高校でも同様です。小学校においては、昔は全国的に「2年間クラス替えをしない体制」が主流でした。しかし、近年では「学級の荒れや崩壊、立て直しが難しい」等により、現在は1年で学級編制するのが主流です。「固定した集団での安定と活性化、その継続」が難しいからです。

「教職員の人事異動が1年～2年で行われ、固定した学級集団の対応経験が乏しい」

中規模・大規模校においては、地元の教職員は最低6年間勤務できます。しかし、本校では管理職も1年から2年で異動し、仮宿勤務の教職員は2年で人事異動するのが基本です。

これは、南都留の中学校では本校のみであり、県内でも少数です。しかも、小規模校勤務が初めてで、固定した人間関係の対応に乏しい教職員が多いのも特徴です。

「全国の小規模校が改善・克服すべき、課題と対応の困難さ」

- ・小規模校は全国的に、人間関係の固定による階層的序列の課題が発生しやすい
- ・小規模校の階層的序列の課題は、対応実践や論文が圧倒的に少なく対応が難しい
- ・階層的な序列が起こると、階層や人間関係を維持するための「同調と付度」が中心になる
- ・「階層的な序列による安定」のために、一見して大きな問題はないと思える状態になる

- ・序列の集団では、我慢を続け、ストレスや内面が傷ついている生徒がいる可能性が高い
- ・学級に荒れが起こると、階層的序列はさらに強化され、長期化・深刻化で立て直しが難しい
- ・全国の小規模校の生徒は「表現力、学力、主体性が低い」傾向にある
- ・人事異動の激しさや階層的序列への対応経験により、担任による力量差が出やすい

「教職員・生徒・保護者・地域・関係機関等の努力による現在の道志中学校の状況」

- いじめ認知の早期発見と対応により解消率100%（初期の小さな問題で解消させる）
- 不登校生徒0名
- 信頼性と妥当性の高い標準化検査での学級満足度は全国でもトップクラス
- 学力は個人差はあるが、平均すると全学年県・全国と同等である
- 主体性や表現力が向上し、支部大会・県大会でも上位入賞を果たしている
(防犯弁論県1位、英語暗唱大会県2位、少年の主張県入賞、読書感想文、絵画コンクール、税金弁論大会等への主体的参加と入賞)
- 教職員組織で対応し、学年間の状況にほとんど差が無い
(主任・担任制ではなく、県内でも珍しい学年職員制を採っている)
- PTA活動の文部科学大臣賞受賞(いじめ防止・キャリア教育・安全体制の補助・強化)
- 地域との連携活動・人材育成
・太鼓演奏・心肺蘇生・花植活動・ゲートボール・地域清掃・15の提言・総合学習等
- 専門家との連携 早稲田大学河村茂雄先生・高橋幾先生・山梨大学須貝千里先生等
- 連携 小学校との研究・SC・SSW・教育委員会・校医・住民健康課・都留児童相談所
医療関係者・義務教育課・富士・東部教育事務所等
- 毎年の公開研究会 授業や研究を公開により、教職員の指導力向上・地域貢献
- 学園祭等の行事の生徒の主体性・協働性 毎年、前年度以上の向上を続けている

「小規模校のデメリットを改善・克服し、小規模校のメリットを生かした教育実践の主な原因」

- 安定と一人一人の主体性、集団の活性化を両立した学級づくり等の本校教職員の努力
- 生徒会執行部・学級役員を中心とした生徒の主体性と協働性
- 異学年交流も含めた、生徒の「話し合い」による合意と上級生の下級生への配慮
- PTA役員・保護者の方々・地域の方々のご理解とご協力
- 教育委員会・小学校・行政・関係機関の方々のご理解とご協力

全国の学校で教育課題に苦戦しています。教育課題は、複雑化・困難化して学校の教職員だけでは改善が難しい状況です、また、保護者からの苦情や非難に対応するために、8割の県で「スクールロイヤー」を設置し法律的な対応もしています。今後も、「相談」を大切にしながら、道志小・中学校のより良い教育環境向上や教育の質の維持・発展のためにご協力をお願い致します。